

著者・嵐圭史さんは3月末で81歳となる。劇団前進座入座は19歳、しかし鳴かず飛ばすの20年。転機は1979年の公演「日蓮」、同時期に木下順二作「子午線の祀り」の主役平知盛役に抜擢された。それからは演技力のめざましい進歩とともに名だたる演劇賞も受賞、座の大看板となった。生涯、前進座俳優とところが突如の「離座」、



本の泉社・1700円

## 私流 演技とは

わが役者人生の歩みとともに

嵐圭史 著

## 前進座「離座」後初の語録

一介の俳優になった。財産演目はどう引き継がれるのか、大方の心配にこたえるかのように、役者の書き置きとして集約した「離座」後、初の圭史語録。演技論、作品論とともに、生い立ちから今日までの豊饒な「役者人生」を名エッセイストの著れ高い筆致で描く。

圭史一代の代表作、それだけは題名だけでも書き記しておきたい。

対話劇「玄朴と長英」、力点がおかれている。木下順二、五木寛之、水上勉、山本安英、滝沢修、宇野重吉、前進座文芸演出部の小池章太郎、津上忠ほか、人間味を鮮やかに描き出す。

あらし・けいし 1940年生まれ。俳優。父は五代目嵐芳三郎、兄は六代目嵐芳三郎

外部出演も多く芸域も広い。豪華絢爛、有名な俳優との共演、華やかな舞台姿は同時出版の『舞台写真集 百姿繚乱』で愉しむことが出来る。

役者・嵐圭史の命は、「独特の声」。平知盛役をはじめ「せりふの色彩感」を余すところなく発揮して、地歩を築いた。何があろうと生涯現役。「玄朴と長英」に立つ。全国で公演を待つ人々への熱烈なメッセージとなっている。

鶴岡征雄・作家